

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600468
法人名	医療法人 大志会
事業所名	グループホームうちこ園
所在地	愛媛県喜多郡内子町内子3683番地
自己評価作成日	平成24年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日勤帯の職員は4～5人で対応しており、一人ひとりの利用者の方の個別介護が行き届くような体制を取っている。主治医をはじめ医療機関との緊密な医療連携の下に日常生活の安定と改善を図れるように努力している。地域に開かれたグループホームにするため、地域支援センターや他の関係機関とも連携して地域との交流や地域貢献に努めている。閑静で自然豊かな環境や無農薬野菜の栽培などを通して、日本の豊かな四季を体感できるように働いている。

●職員は、利用者の立場になって一日過ごしてみる「一日入居体験実習」の際に、廊下と居間の温度差に気付かれ、廊下側の椅子には、厚めのひざ掛けを用意された。これまでは、利用者個々の担当者がご家族に向けて毎月手紙を書いておられたが、利用者の暮らしぶりをいろいろな視点からご家族に伝えられるよう、全職員が月替わりで書くように取り組みを始めておられる。管理者は、「休む時はしっかり休む、勤務終了時間が来たらきちんと帰宅すること等を職員に伝え、職員が「心身ともに元気で楽しく働けるような環境づくり」に努めておられる。

●居室内に放尿する利用者があったが、センター方式の「24時間シート」を活用して、排泄パターンを分析し原因をひもとき、トイレで排泄できるよう支援されている事例もある。又、目の不自由な方がひとりトイレに行けるよう、職員で話し合い、利用者が立った時、ちょうど手で触れる位置の壁伝いに鈴をつけた紐を、トイレまで這わせてみられた。利用者は、お好きな時にご自分でトイレに行けるようになり、とても喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム うちこ園

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

片岡 知恵美

評価完了日

平成 24 年 9 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 職員全員で介護の原点である理念と、理念に対する目標を掲げて、玄関やホール詰所などよく見える場所に掲示して、日常的に認識できるようにしている。また職員会議やカンファレンスなどの機会に介護の原点としての理念に立ち返り皆で共有できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 「入居者の基本的な人権を守り、利用者の立場に立ち、『まごころ』と『おもいやり』を信条として安心して暮らせる場を提供します」という事業所理念は、パンフレットや事業所通信にも記載されている。年度ごとに職員で話し合い目標を立て、理念の具体的な実践に取り組まれており、今年度の目標は、「地域密着型サービスとして事業所の機能を活かした地域貢献に取り組むと同時に、入居者一人ひとりの尊厳と暮らしの継続性を重視した支援を実施する」と立て、さらなる地域交流とご本人とご家族の意向をより尊重した支援に力を入れて取り組まれている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 地域の行事やお祭りなどに招待され積極的に参加している。また地区のお祭りには近所の子供たちが威勢よくみこし担ぎを見せて来てくれる。地区の保育園、小学生、中学生、高校生等のそれぞれのボランティアとして活動に来てくれるなどの交流がある。日常的に買物などに出かけ顔なじみの人と話をし地域とのつながりを継続できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 買い物や外出に出かけたり、図書館を利用する等、利用者が日常的に地域の中に出かけ、いろいろな方と交流できるよう支援されている。今年は、地域の方達と一緒にぶどう狩りに出かけることに取り組み、より地域の方達とのつながりを深められた。又、事業所の、「うちこ園まつり」や「クリスマス会」等の行事のほかにも、定期的に地域のボランティアを受け入れておられ、利用者は、保育園児や小学生とのふれあいを特に喜ばれ、笑顔が多く見られるようだ。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 地域住民を対象に認知症の理解及び接し方等についての研修会を実施している。地域包括支援センターからの要請で、事業所でのセンター方式の使い方活かし方等についての実践内容や要領、成果等について講演を実施した。また福祉人材センターの職場体験事業に協力し実習生の受け入れにより人材育成への貢献にも努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議においてグループホームでの取り組みや入居状況や活動内容等について説明や報告をし、改善課題等についての理解を得られるように、会議型の運営推進会議と交流型の運営推進会議を実施して参加者の方への理解を深めるように努めている。また地域の行事等のお誘いをいただいたりと協力関係を築くこともできている。</p> <p>(外部評価) 年6回行う運営推進会議のうち、3回は、「うちこ園まつり」「内子町内グループホーム合同研修会」「内子町内グループホーム合同運動会」と合わせて行っておられる。老人会会長を始め、民生委員やご家族も多数参加されており、利用者も参加する「内子町内グループホーム合同運動会」では、メンバーの方達とともに楽しまれて、事業所は、去年は優勝、今年は準優勝された。年間3回は「会議型」ですすめておられ、事業所から活動状況や職員研修等について報告して、意見や感想をうかがっておられる。ご家族の代表として家族会の会長が出席しておられ、年に1回開催される家族会時には、他のご家族に会議内容を報告されている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 認知症研修会では認知症サポーター養成講座としての開催となり市町村の地域包括支援センターとの協賛で開催した。また地域包括支援センターの要請で認知症アセスメントであるセンター方式の実践について、使い方活かし方についての講義を実施するなど双方向的な協力関係を持っている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、地域包括支援センターからの依頼により、地域のケアマネジャーを対象に、「認知症の人のためのセンター方式を用いたマネジメント」について事業所の実践を踏まえながら講義された。内子町にかねてより要請していた、「介護相談員制度」が発足し、来年度から本格的に実施される運びとなったようだ。中学、高校、専門学校生、福祉人材センターの介護体験実習を受け入れておられ、事業所にはいろいろな地域の方の出入りがあり、地域の認知症ケアの向上にも貢献をされている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 機会あるごとに身体拘束についての勉強会を開き、職員間での認識を深めている。また地域の事業所の機関や協議会などでの勉強会にも参加して研修をし、「禁止の対象となる具体的な行為」について各職員が認識できるように努め、常に身近なところに掲示して日常的に意識できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、朝の散歩から帰って来られた利用者の様子がみられた。又、ベランダで飼っているウサギに餌をやったり、日向ぼっこする等、外で過ごす機会を積極的に作るよう努めておられる。「帰りたい」気持ちがある利用者には、職員はゆっくりお話を聞いたり、散歩に誘って気分転換を図ったり、ご家族と電話でお話する機会を作る等して、ご本人の思いや行動を止めないように心がけておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止関連法について内外での勉強会や研修会に参加して見識を深め、知らずして虐待につながらないように注意している。入居者の尊厳と基本的人権を保持しながら、楽しく生活が送れるように邁進していく意向を常に持ちながらサービス提供ができるように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護制度利用の該当者は現在はいないが、今後必要性が生じた場合は各関係機関と連携しサービス利用を推進する。成年後見制度及び生活自立支援事業についての研修会に積極的に参加して職場内でも更に勉強会を開催し全職員で共有しあっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は契約書や重要事項説明書、医療連携体制及び見取りの体制について十分説明し納得を得るようにしている。契約の改訂では改訂資料を提示して詳しく説明し同意を得るようにしている。契約解除においては本人や家族の意向を考慮し今後の対応の相談をする体制になっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意向や思いを表しやすいように選ぶ機会や、決定場面の働きかけに努めている。また日常の生活場面で本人の言動や会話により、要望を見出し職員間で共有して満足してもらえるように工夫している。家族会の話し合いや行事での親睦会などの機会を捉えて、また日々の面会などで直接要望を聞き出すような工夫も実施している。 (外部評価) 年1回行う「家族会」には、6～8名のご家族が出席されている。これまで、家族会時に、ご家族のみで話す時間を設けておられたが、ご家族から「なかなか話がすすまないの、職員も入ってほしい」という要望があり、現在は職員も入り、事業所の取り組み等について報告しながら、意見等を聞き取るよう、すすめておられる。又、ご家族の来訪時は、職員がご家族にアルバムや献立の写真等をお見せして、意見や要望を聞き取っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のミーティング、勉強会、職員会、個別面談など様々な機会を捉えて意見や考えを一人ひとり聞きだすように工夫している。検討の内容においては良い考えを取り入れやすいように雰囲気作りにも心がけ、柔軟な意見や発想が展開しやすいように問いかけたり、働きかけている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の立場になって一日過ごしてみる「一日入居体験実習」の際に、廊下と居間の温度差に気付かれ、廊下側の椅子には、厚めのひざ掛けを用意された。これまでは、利用者個々の担当者ご家族に向けて毎月手紙を書いておられたが、利用者の暮らしぶりをいろいろな視点からご家族に伝えられるよう、全職員が月替わりで書くよう取り組みを始めておられる。管理者は、「休む時はしっかり休む、勤務終了時間が来たらきちんと帰宅する」こと等を職員に伝え、職員が「心身ともに元気で楽しく働けるような環境づくり」に努めておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の人事考課を機会とし個人面接を実施すると同時に法人内の親睦会、全体会、勉強会などを通して理事者や代表者との交流が図れ、自由に意見が述べられる機会がある。また就業規則により職務や給与体制や条件は定められており納得できる体制になっている。スキルアップの段階に応じて昇給の体制も整っている。	
			(外部評価) 職場内研修計画と各職員ごとの個別研修計画及び就業時の新人研修計画及びOJT計画などの作成と実施により徹底した研修によるスキルアップ体制を整えている。愛媛県及び内子町内におけるグループホーム合同研修会や法人内の研修会にも積極的に参加して、職場内での勉強会に反映できる体制にしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム協議会に入会して交流を図り、町内でグループホーム連絡会を自主的に作り研修会や勉強会を開催したり、合同運動会、合同研修会を開催して地域住民の協力を得るなど地域密着型としての役割を図っている。	
			(外部評価)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で自宅を訪問し、ご本人の生活状況や生活習慣、馴染みのものについてなどの把握をしている。その後施設見学をして頂き、施設の概要や理念などについて理解と納得をして頂き、入居の段階では慣れた場所として認識していただき、困っていることや要望などの現状を把握し関係作りに努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の状況を把握し共有すると共に本人を取り巻く家族の状況や、家族間での思いや考え方の違いなども把握して、家族と一緒にご本人を支えていく姿勢を持ち、徐々に本人への思いが重なり合い励まし合える関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の要望や現在の状態について、必要なサービスと今後更に必要であろうサービス等について説明相談し、サービス内容を自由に選択できるように促し、必要時は担当ケアマネや支援センター及び介護保険課等の協力を得て解決できるように連携を図っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりのできる事を引き出す介護を続けるなかで、ご本人の得意なことを工夫して生活行為への参加を促しセッティングして、実施する事で、介護者側が入居者に感謝する場面を沢山作り、介護されていること意識を持たないような方法に努め一部分でも参加してもらうように工夫している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会の交流会や日々の面会の機会を通してお互いの信頼関係を深めながら、日常的なご本人の現状について共有しあい共感し合い一緒に喜び合えるよう、共にご本人を支える支援者同士として連携できるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 町内の商店街や道の駅「からり」に買物に行き馴染みの人たちと顔を合わせて話したり、昔からの行きつけの美容室を利用している。また馴染みのお寺にお参りしたり、行事に参加したりして昔を懐かしみ、地域社会との関係を継続してる。親しい地域の人達に尋ねてきてもらい懐かしんで交流を図っている。 (外部評価) 利用者の希望で、お墓参りや法事、外泊、選挙投票等に出かけられるよう支援されている。又、時には、利用者の方のお姉さん宅に職員も一緒に栗拾いに行かれることもある。事業所には、ご家族の方や友人がよく訪ねて来られ、調査訪問時にも、利用者の弟さんと友人の来訪があり、職員は、居室でゆっくりお話できるよう、お茶をお出しする等、気配りをされていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合うもの同士での交流が自然に持てるような働きかけのなかで、更に注意して見守りながらふとしたきっかけより新たな関係性が見出せるように散歩や野菜作りの協働を勧めたり、また少人数での外出を実施したりして関係を深める支援をし、孤立する事がないように心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退職した職員や元入居者のご家族等がずっと継続して遊びに来ていただき、ボランティアとして、入居者との話し相手になったり、一緒にぶどう狩りに言ったり、行事に参加して交流を図っている。またうちこ園祭りや、運動会などにはその友達などの輪が少しずつ広がり地域交流へとつながっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を使用して一人ひとりの希望や意向等の情報を職員間で共有し日々の介護に活かしている。意向や希望は固定化せず成り行きや場面、介護の状況等によって変化していくことも考慮しながら、本人の言葉や表情により真意を測りながら、その時々での意向も確認するようにしている。 (外部評価) 日々のかかわりの中で、利用者一人ひとりの思いや意向に耳を傾けるよう努めておられる。ご家族からも、ご本人の興味のある事等をお聞きして、支援につなげるよう努めておられる。「センター方式」を用いて、利用者の思いの把握に努め、日々の中から得た情報は書き足し、1年ごとに新たにアセスメント表を作成されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 自宅での生活の習慣やご本人の生活の歴史、また自宅周辺の環境及び家族関係についてなど、入居に至る経過を把握し、入居後も引き続きセンター方式シートを活用して、総合的な理解把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の個別の生活スタイル、リズムに添って出来ること、できないことの日差変動及び日内変動の状況を細かく観察し、その時々に応じた対応を心がけ、職員全員で共有し把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎日の生活から介護の組み立てにより客観的な視点での介護内容を家族や職員が共有し、よりよく生活するための支援を盛り込むようにしている。個性や意向を大切に本人や家族、職員や主治医、関係者等の気づきや意見を検討して総合的な介護計画を目指している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、毎月モニタリングを行い、3～6ヶ月で評価し見直されている。事業所では、今年度から、さらなるモニタリングの充実、利用者本人、家族の要望や意向のアセスメントに努めておられ、介護計画につなげていくために、介護計画の様式を改め、取り組みをすすめておられる。事業所では、「S(主観的事項)O(客観的事項)A(考察)P(課題)」を明確にした介護記録を作成し、介護計画につなげておられる。</p>	<p>さらに、管理者は、「ご家族にも分かりやすい、利用者の暮らしが『見える介護計画』『楽しく明るい介護計画』の作成に取り組んでいきたい」と話しておられた。今後さらに、地域資源等を活かしながら、利用者個々の意欲や自信につながるような支援に工夫していかれてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) SAOP式の介護記録形式にて出来ること出来ない事、介護状況についてや身体状況の変化による日内変動、日差変動及び食事や水分摂取状況等を日々記録することで情報を共有しセンター方式を含めて個別記録と介護計画が総合的に連動できる体制にしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 通院や送迎等の柔軟な対応にて重度化及び高齢化に伴う家族状況や要望に応じていくように支援している。法人内の施設や機能を活用して生活リハビリを充実させ自立支援が図れるように努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の図書館を利用したり、公民館での催し物を見学に行くなど、文化的でより豊かな暮らしを楽しめるよう地域資源を活用している。少しでも生き生きとした暮らしができるように地域の力を借りて勧めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居者一人ひとりの主治医の継続的な医療が受けられるように、また受診時の送迎や生活状況及び身体的一般状態を細かく報告し医療連携を図りながら、異常の早期発見に努めている。また家族への連絡も詳細にご本人の情報を共有している。	
			(外部評価) 利用者個々のかかりつけ医を受診できるよう支援し、遠方にある医療機関への受診はご家族が支援し、町内の受診時は、職員が同行されている。利用者の状況により往診してもらう方もいる。歯科受診は職員が付き添っておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 管理者は看護師でもあるため入居者の日常的な一般状態を注意深く観察し健康管理を行っている。また主治医との連携を密に図り医療面や栄養面での助言が日常的に気軽に受けられる体制が整っている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 病状や入院治療方針、今後の注意事項について等家族と共に説明を受けたり、病院の看護師や本人及び家族と情報交換を図るなどして退院後の過し方などについても把握できるように積極的に働きかけている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制及び看取り介護に関する指針について説明したり文書にて共有し、重度化や終末期の対応について本人や家族及び主治医を交えて同意書を作成して方針を統一している。ご本人の病状の悪化時は主治医の意見を踏まえて、家族と検討を重ね合い、その時々の方針の気持ちの変化にも柔軟に対応するように努めている。	
			(外部評価) 入居契約時には、ご家族に、「医療連携体制に関する指針」を提示し、説明されている。ほとんどのご家族が「最期まで事業所で」との希望があり、利用者も「最期までここにおりたい」と希望されることから、事業所では、「利用者やご家族の希望に沿った支援に取り組みたい」と考えておられる。数年前に、重篤な状態に陥った利用者がおられたが、職員は、吸い飲みを使って時間をかけて経腸栄養剤で栄養を摂れるよう支援し、現在も、事業所での暮らしを続けている方もおられる。12月の「内子町内グループホーム合同研修会」では「看取りについての勉強会」が予定されており、管理者は、「看取りに対する心構えをさらに充実させたい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命講習会に参加して救命技能を経験できるようにしている。また緊急時の対応マニュアルや母体である老人保健施設との協力体制にて応急手当や連絡方法等の留意事項を周知して職員会議でも話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力によりグループホームを主体にしたり、夜間想定による訓練をして、避難誘導や避難経路の確認、消火器の使用方の訓練をおこなっている。法人内には災害時に備えた日用品や食料品、飲料水を備蓄しており万が一の場合に備えている。町内での一斉避難訓練が実施され当園に於いて地域の多数の住民と協同で避難訓練や消火訓練を実施した。 (外部評価) 23年度11月に実施された町内一斉の避難訓練時には、地区の訓練を法人施設を拠点に実施され、約40名の地域の方も参加されて行われた。「近くの池から給水しての消火活動」「敷地内にある消火栓を使用しての消火活動」「毛布を使った担架での救出訓練」等、地域住民と協力して実施された。その際に、地域の方達には施設内を見学していただき、施設全容を知っていただく機会にもなったようだ。地震に備え、居室のベット付近には、倒れやすい家具は置かないよう配慮されている。居室入口の暖簾を防災に替えることも計画されていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 基本的人権を尊重するという理念に基づき、入居者の意向や気持ちを尊重して確認しながら介助を勧める事、入居者は目上の方で人生の先輩である事から敬語で接する事、十分プライバシーに考慮した声かけや誘導をする事などについて、採用時や職員会議、毎日のミーティングで話し合い認識、合意している。 (外部評価) 事業所では、職員が利用者とゆったりとかかわれるよう、職員の人員配置を手厚くして、個別支援に取り組まれている。職員からの提案で、利用者の思いや置かれている状況を実際に体験し共感することで、さらに利用者本位のサービスの質向上に役立てようと「一日入居体験実習」を実施された。寝たきりの体験、目が不自由な体験、オムツでの排泄、食べさせてもらう体験、車いすでの移動等、利用者の立場に立ち経験することで、多くのことを学ばれたようだ。中でも「声かけの大切さに改めて気付かされた」と管理者、職員は話しておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者個人の嗜好や関心、好みを日頃の関わりの中から見極め、自ら選択できる場面作りに心がけている。また各個人の好みや嗜好をパターンの決め付けず、気持ちや好みの変化についても敏感に捉えられる介護に努め、些細な表情や言動から読み取り共有し、共感できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人の体調や天候等に合わせて、買物や外出散歩や受診と一人ひとりの意向を確認しながら生活リズムを整えたり、その日の望みを推し量り自発性を刺激して、柔軟に対応できるように職員側の余裕も持ちながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 訪問美容でパーマや毛染めなどのおしゃれができるように取り組んでいる。また日々の衣類の組み合わせや、衣類のズレ直しなどを工夫して整容を細かく注意して身だしなみを整え個人の尊厳につながるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日の食材等の買物や、畑からの旬の野菜の収穫により食材を調達し、下ごしらえや調理、盛り付けや配膳、後片付けなどの作業に一人ひとりの力量に応じた参加ができるように働きかけ、一緒に出来る上がる過程や料理の味を喜び合うようにしている。 (外部評価) 事業所で手作りする食事は、地物の材料を使用するよう心がけておられる。利用者や食材の買出しに出かけた際には、利用者が野菜等を選んでくれるようだ。献立は、利用者の希望も採り入れながら、職員が交代で1週間分立て、レシピも用意されている。毎日の朝・昼食には必ず、2～3種類の果物を付けておられる。調査訪問時、職員は、介助したり、見守りながら同じ物を食べておられ、目の不自由な方には、「右側のおかずは〇〇です」等、位置と食事内容をゆっくりと丁寧に説明されていた。下膳して、ご自分の食器を洗っておられる利用者も見られた。おはぎや蒸しパン等、おやつも利用者で手作りされている。誕生日には、利用者のお好きなおすしや赤飯等でお祝いされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取量は詳細に記録し継続的な観察において、一人ひとりの状況が把握できるとともに、摂取量や栄養のバランスを保持できるように支援している。また職員及び家族や主治医が共有する情報としても役立っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内に残渣物が残っていないか、うがいや歯みがき時に注意して観察し口腔ケアを実施しながら誤嚥予防にも心がけている。義肢は就寝前に消毒し、歯茎のマッサージをスポンジやブラシを利用して口臭が発生しないように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>センター方式のシートを活用して、一人ひとりの排泄パターンや生活リズムを把握しトイレにタイミングよく行けるようにサインや意思表示を察知して、さりげなく誘導してトイレで気持ちよく排泄ができるように支援している。夜間はオムツ対応の人でも昼間は尿パットを上手に活用してトイレで自然に排泄できるように工夫して誘導している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2部屋に一つトイレが設置されており、背もたれや跳ね上げ式の手すり等が整備されている。居室内に放尿する利用者があったが、センター方式の「24時間シート」を活用して、排泄パターンを分析し原因をひもとき、トイレで排泄できるよう支援されている事例もある。又、目の不自由な方がひとりでトイレに行けるよう、職員で話し合い、利用者が立った時、ちょうど手で触れる位置の壁伝いに鈴をつけた紐を、トイレまで這わせてみられた。利用者は、お好きな時に自分でトイレに行けるようになり、とても喜ばれている。失禁がみられた場合には、「大丈夫ですよ」と、声かけする等、さりげない対応を心がけておられる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の生活活動の中で適度の運動を取り入れ、繊維の多い野菜やイモ類、海藻類、きのこ類を毎日の調理に使用して腸内環境を整え、自然な排泄が出来るように努めるとともに、便秘気味の方にはオリーブ油センナ茶やゴマを利用して排便の管理にも努めている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居者の希望にあわせていつでも入浴が可能なように浴室環境を整えている。重度化して浴槽に入ることが困難な場合でも座シャワーを使用したり、2～3人体制での重点的な介助にてなるべく一般浴で気持ちよく入浴できるように支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入浴日、時間帯等、決まりを作らず、利用者一人ひとりの希望に添った支援に取り組まれている。石鹸や入浴後のかゆみ止めローション等、利用者個々の好みに合わせて用意されている。寝たきりの利用者は、大きな布を使用して、複数の職員が端々を持ち、利用者を安全に湯船に入入りさせ、温まることができるよう、工夫して支援されている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>入居者個人の表情や身体状況により食後は自室でゆっくり休憩できるように誘導したり、また自室で閉じこもりがちな場合は適度な生活行為や散歩外出を働きかけて気分転換を図り夜の安眠に繋げるなどの工夫をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される薬説明書を各個人記録と共に綴り内容を認識し共有している。1回分ずつ手渡して服薬の確認をし、誤薬のないように注意している。また下剤などの利用者については日頃の排泄状況等の観察とあわせて必要時は主治医に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者一人ひとりの残存能力を引き出し活用して、洗濯物を干したり、料理の下ごしらえ、野菜作り、花の植え替えなどの出番を作り活躍できるように支援している。時には喫茶店でコーヒーや紅茶などを楽しんだり、買物や外食で気分転換を図ったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買物や地域の役場などへ一緒に出かけたり、少し遠くの集合店に足を延ばしたり、一人ひとりの移動能力や希望にあわせて気軽に出かけている。四季折々の花を探して見物したり、神社やお寺をめぐるりして満足できるように支援している。また、本人や家族の要望を聞いて親族の家に栗拾いに出かけたり、お墓参りに出かけて親類の人との交流を図ることもある。	
			(外部評価) 日常的に園内を散歩する機会を作っておられる。調査訪問時には、リクライニング車いすを使用する方も、みんなと散歩に出かけておられた。又、桜にチューリップ、菖蒲、紅葉等、季節を訪ねて出かけたり、利用者の希望で、宇和町までそうめん流しを楽しみに出かけたりされている。又、利用者の希望で喫茶店に出かけておやつを楽しむ等、外食の機会も多いようだ。道の駅や商店街での買い物時には、ご家族や知り合いにもよく出会うため、買い物することが目的だけではなく、馴染みの人達との会話も楽しみに出かけておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 財布やバッグの中に少額のお金を自分で持って、時々残高を計算するなどされている。買物や外出時は一緒に金額を確認し「安い、高い」と勘定しながら相談して選んだりレジで実際に支払いをってもらうこともある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はコードレスの受話器にて適宜自室でゆっくり会話する事もできる。本人の要望にいつでも電話ができるように、職員からも声かけして通信体制を整えている。遠くの家族からの贈り物のお礼にはがきをしたためて送れるように支援している。一人ひとりの力量に応じて年賀状を作製してご家族や孫など親族に送り飲んでもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室と廊下の空間に暖簾で仕切りちょっとひと休みできるように椅子を置き個室と共用間の堺にしている。居間や食堂台所は仕切りがないので気兼ねなく入り作業がし易いようになっている。畳の間はコタツや火鉢を置き冬場の暖がとれるようにしている。温度計湿度計にて気温を管理し排煙窓の開閉により冷暖房の空気の淀みを解消し環境整備に努めている	
			(外部評価) 事業所の概観は、内子町の町並みの風情に合わせた和風の建物となっている。玄関前には、地域の方が提供して下さった菊の鉢植えや、利用者や丹精したパンジーの鉢植えが並べられていた。玄関には、ご家族の手作りの手芸品等が飾られ、壁には利用者の笑顔の写真や職員の顔写真と名前も掲示されていた。台所は、利用者が食事作りにかかわりやすいようにアイランド式になっている。畳の間には、こたつや火鉢を置き、冬支度がなされていた。ベランダからそのまま中庭に車いすでも出られるように、緩いスロープが整備されており、広い中庭には東屋があり、時にはティータイムを楽しむこともある。裏庭の畑では無農薬野菜を育てておられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ベランダやテラスに椅子を置き畑の育ち具合や園庭を見つめたり、廊下や居間のあちこちにちょっと座って一呼吸置けるスペースを設けている。居室の入り口には椅子兼収納になったスペースがあり、居室と廊下のさりげない空間となり落ち着く場所となっている。玄関の外内の椅子は出入りの靴の履き替えや面会者のお見送りなどさまざまな用途にて重宝している。	
			(外部評価) 畳の居室もあり、各部屋に洗面台が設置されている。ご家族と協力して、使い慣れた椅子や鏡台等を持ち込まれたり、ご家族やご本人の手芸・習字作品を飾ったり、思い出の写真を飾ったりされている。胡蝶蘭の鉢植えを世話している方もおられた。ご家族が温湿度計を置いておられ、室内の管理に気を配っている方もおられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の協力により自宅で使い慣れた物や、自分が作成した作品などの馴染み深い品物を持ってきてもらい居室に置くことで、「ここは何処やろう」と急に不安になる人でも自室に入ると安心され納得される方もある。一人ひとりの安心の源を増やしていくように努めている。	
			(外部評価) 居室の名札やトイレなどの表示は入居者一人ひとりの目線に合わせるようにしている。食堂のテーブルは季節の花や飾り物などを並べて、自然に季節が把握できるようにして、入居者の目線で環境を整えるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の名札やトイレなどの表示は入居者一人ひとりの目線に合わせるようにしている。食堂のテーブルは季節の花や飾り物などを並べて、自然に季節が把握できるようにして、入居者の目線で環境を整えるように努めている。	
			(外部評価)	